

信濃毎日新聞 5/19

'86 課題を語る

チェルノブイリ原発事故でよく分らないのは、原子炉の事故なのかどうかです。六日に事故調査委員のシチェルビナ委員長（副首相）が複合的要因による原子炉の化学爆発と発表していますが、同日付のソ連共産党機関紙プラウダはまず建屋で爆発が起き、それが炉心の火災につながったと伝えている。

ソ連が情報発表を遅らせた、詳細な原因を明らかにしないのは原子力発電所を軍事利用しているからとも思えます。実際、ソ連は事故を起こしたRBMK（黒鉛減速沸騰軽水冷却型）をあまり外国人に見せたがらない。私も三回ソ連へ行ったが、見せてもらえなかった。ことし一月、ソ連は国際原子力機関と、軍事

的に転用していないことを証明するための査察を受け入れ、日米間の協定を結んでいますが、日本に多くあるPWR（加圧水型）の査察には応じていません。約二百トンのウランを約二千本の燃料棒にわけて原子炉に入れてあるのが特色です。だからたとえ一本破れても取りかえることもできるわけで、一

国際的に

木林 一久氏

（日本原子力産業会議専務理事）

ソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故をきっかけに、原発の安全性が改めて世界的に大きな問題になってきた。ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長は十四日夜、「原子炉の停止作業中に蒸気が発生し、水素爆発を誘発した。核エネルギーをコントロールできない事態に初めて遭遇した」と事故の重大性を認めると同時に、核実験停止を協議するたいめ広島が欧州での米ソ首脳会談の開催を重ねて提案した。が、事故の詳細はまだはっきりしない。日本でも原子力発電の占める位置は年々高まってきた。事故を起こしたソ連の原発とは型が違い、日本は大丈夫—との見方もある一方、単純比較はできない、原発は本当に安全なのかと懸念する声も強まっている。関係者に安全性を中心に聞いた。



原発問われる安全性

(1)

基あるこの型はリストにあげていない。また東欧諸国に三十基も輸出していますが、この型はゼロ。これらからみても軍事兼用は間違いなく、何か爆発が特別の作業をやっているか、故が始まった事故を起こした原発は



松山空港で記者会見する金丸幹

つた。この調査は毎年実施している「将来あるべき人事管理を考えるための基礎調査」の一環として団塊の世代の処遇や、大卒女子の受け入れ状況、待遇について昨年十月、東証上場企業一千社を対象に実施、十八日までに結果がまとまった。有効回答は二百七

悲しき団塊

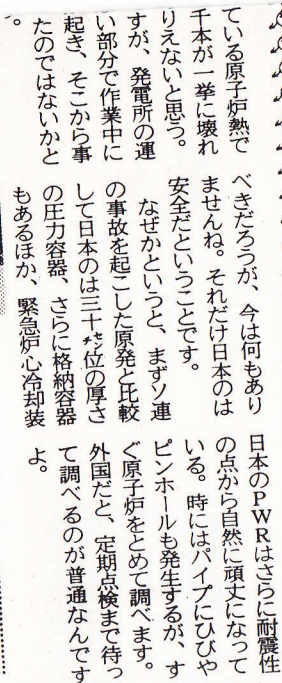
不足が深

いて二十代二九%、四十代二六%、五十代九%の構成に四二%、部長はがポスト不足で人がいるとして経歴や資格は十分なのにポスト不足のために昇進できない課長昇進の平

スに就けないことで社員の勤勞意欲が低下することを心配しており、「既にかなり低下している」と答えた企業が三割あった。

一方、大卒女子（四年制）の採用については「毎年ほぼ同数採用」している企業が二割、「だんだん増えている」と答えた企業が三割あった。

このうち昇進を「係長まで」に限定する企業は四七％、「課長代理まで」が二〇％、「課長まで」が三三％。男女雇用機会均等法のごとし四月施行を見通してか、採用面では従来よりやや門戸を広くするものの、昇進など処遇は依然厳しい—という企業の実情を垣間見ることができる。



と、また原子力関係者にいい意味での（核への）アレルギ―があります。それに原発は約二千万個の部品でできていますが、きちんとした規準でつくり品質管理し、作業員が責任をもって扱えなくてはなりません。原子力事故の多くは、原子炉の一次冷却ポンプの中に

【もり・かずひさ】 京大理学部物理学科卒。中央公論へ入社。日本の原発問題に携わり昭和31年から日本原子力産業会議へ。現在専務理事。「ソ連はもっと情報を出してほしい。はつきりさせないから放射能だけが宣伝される。原子炉の安全性についての理解へのダメージは米スリーマイル島原発事故以上かもしれない」と強調した。広島県出身、60歳

は日本人に同じ
てますね。

おかげで原発
から出る放射能
は許容量の百分
の一、天然にあ
る(約百^{ミル}リ)
よりはるかに少
ない五^{ミル}リが基
準で、実際はさ
らにその百分の
一です。何かの
原因で原子炉の
運転が停止する
「スクラム」に
しても一基当た
り一回と、アメリ
カの一というよう
に、でも問題はあ
ります。

とはいっても、日本でいい
加減なことをやり一人でも放
射能で死んだら日本の原発は
終わりです。ジャンボ機は落
ちても飛行機は飛び続けます
が、原発はそうはいきませ
ん。そういう意味では私たち
関係者は真剣だし、人間性、
人間の能力をためされている
ともいえます。大丈夫とわか
つていても、決して「天狗」
にならず原子力の平和利用を
進めていきますが、今回の事
故で分かるように安全問題は
単に一国だけの問題ではな
い。安全に関する経験、情報
をすすんで交換する国際的仕
組みを一層充実する必要があ
ります。

この事故を契機に
兎の安全性が何かと
います。しかし、原
きりしないのだけ
し出して教訓にす
え方がだいぶんす
置、補助電源など二重、三重
の安全装置が施されている。
その点、ソ連のは図面で見
限り軍事兼用のため安全の考
え方がだいぶんす

そつした背景には日本の原
発がスタートする三十年前
に、軍事は絶対しない、公開
するといつたいわゆる三原則
をきちんと決めて始めたこ
せん。

スペースシャトルや日航ジ
リヤン○二回と、アスチ

とはいっても、日本でいい減なことをやり一人でも放能で死んだら日本の原発は落わりです。ジャンボ機は落しても飛行機は飛び続けますが、原発はそうはいきませぬ。そういう意味では私たちが、関係者は真剣だし、人間性、人間の能力をためされているともいえます。大丈夫とわかっていても、決して、天狗にならず原子力の平和利用を進めていきますが、今回の事故で分かるように安全問題は単に一国だけの問題ではない。安全に関する経験、情報ですんで交換する国際的仕組みを一層充実する必要があります。